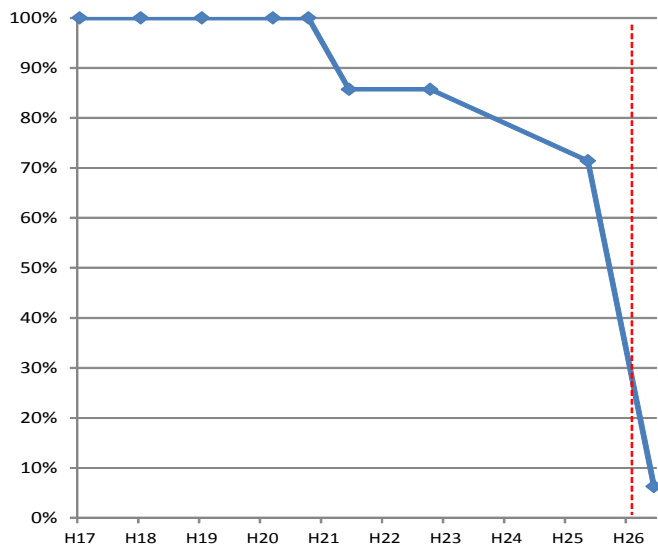


樹種名	ウメ（品種：ブンゴウメ）			
科 目	バラ科			
学 名	<i>Prunus mume</i> var. <i>bungo</i>			
分 布	中国が原産地という説が有力であり、日本には古くから導入された。台湾、中国南部に分布する。			
樹木特性	陽樹であり、普通は庭や畑で栽培されている。 ウメは萌芽能力が高く、剪定しないと樹形・花つき・実つきが悪くなる。 発根性も高く、天然記念物のウメの中には、倒木したものが発根、または萌芽して成長したものもある。			
用 途	果樹として利用。			
植栽本数 （植栽密度）	80 本 （他樹種との混植）			
特 徴	【樹 形】 落葉小木で樹高は 10m 未満である。枝葉は太く丈夫である。小枝は紫色。葉の形質は母種に似ているが、大形である。花は淡紅色あるいはバラ色であるが、ときに白色のものもある。花柄は非常に短かい。花弁は円形でやや大形である。果実は大形である。熟すると黄赤色となり、赤褐色の斑点がある。野梅系・緋梅系・豊後系アンズ系の 4 系統あり、アンズ系は容易に交雑する。野梅系（やばいけい）の果実は小形であり、果実を利用する豊後系（ぶんごけい）（肥後系（ひごけい）とも呼ばれる）ではアンズとの交雑により大形化している。ただし、完熟しても果肉に甘味を生じることはない。花芽はモモと異なり、一節につき 1 個となるため、モモに比べ、開花時の華やかな印象は薄い。毎年 2 月から 4 月に 5 枚の花弁のある 1~3 cm ほどの花を葉に先立って咲かせる。花の色は白、またはピンクから赤。葉は互生で先がとがった卵形で、周囲が鋸歯状。果実は 2~3 cm のほぼ球形の核果で、実の片側に浅い溝がある。6 月頃に黄色く熟す。七十二候の芒種末候には「梅子黄（梅の実が黄ばんで熟す）」とある。梅には 300 種以上の品種があり、野梅系、紅梅系、豊後系の 3 系統に分類される。梅の実を採るのは主に豊後系である。		 	
試験地での様子	普通苗を植栽し、平成 21 年度からウサギによる被害が多く見られる。			
被 害	ウサギによる被害が多い。			

ウメ 現存率



【現存率】

植栽後 4 年を経過してから、ウサギの被害により枯死が発生している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 6.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

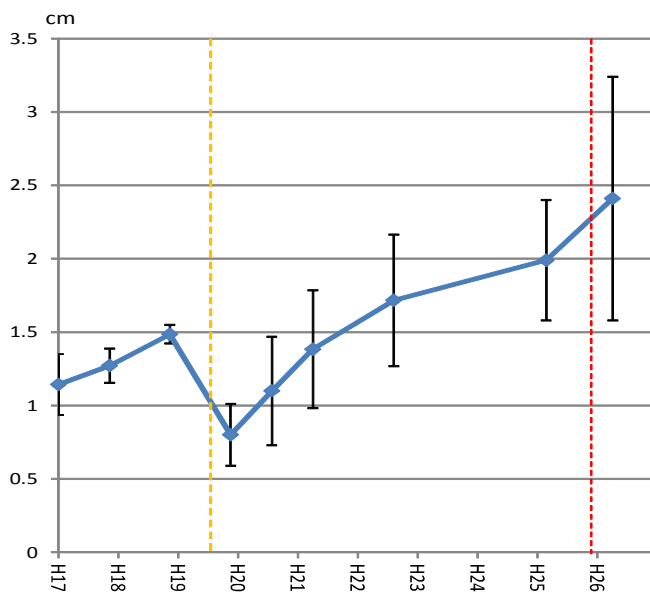


豊後梅の開花



竜狭梅

ウメ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

現存している樹木は順調に成長をしており、平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 2.41 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

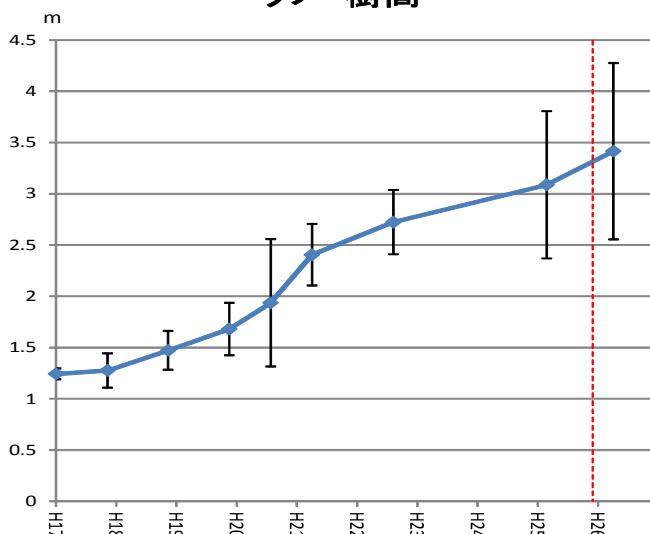


南香梅



白加賀梅

ウメ 樹高



【樹高】

現存している樹木は徐々に成長をしており、平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 3.42m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

《プチ情報》

大和本草には、「日本にて豊後肥後より出て」とある。

江戸時代以降、花見といえどもっぱらサクラの花を見ることとされている。しかし奈良時代以前に「花」といえば、むしろウメを指すことの方が多かった。豊後梅とも肥後梅ともいわれる。豊後国でいうところのブンゴウメは、半八重白花のものである。この植物はウメとアズキの両形質をもっているため、ウメとアズキの雑種ではないかといわれる。